



平成 30 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名	三櫻工業株式会社
代表者名	取締役社長 竹田 玄哉
(コード番号	6584)
問合せ先責任者	執行役員 財務本部長 長谷川 貴之
(TEL	03-5793-8411)

## 特別利益の計上（開示事項の経過含む）及び特別損失の計上並びに 通期連結業績予想値と実績値との差異及び個別業績値と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月期の連結決算及び個別決算において特別利益及び特別損失を計上いたしました。これらを受けて、平成 29 年 5 月 12 日に公表した通期連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、個別業績においても前年実績値と比較して差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別利益の計上について（開示事項の経過）（連結・個別）

平成 30 年 1 月 26 日付「厚生年金基金の解散決議に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、当社が加入しておりました「サンヨー連合厚生年金基金」は平成 30 年 1 月 24 日開催の代議員会において基金解散を決議いたしました。その後の平成 30 年 3 月 31 日付で厚生労働大臣の認可のもと解散したことを受けて、平成 30 年 3 月期の連結決算及び個別決算において厚生年金基金解散益 10,488 百万円を特別利益に計上しました。

#### 2. 特別損失の計上について

##### (1) 減損損失の計上について（連結・個別）

当社が保有する自社オフィス及び採算性が悪化している国内事業所について、減損損失 1,582 百万円を計上しました。また収益性の改善の遅れ等によりドイツ会社及び中国子会社等についても 1,742 百万円の減損損失を計上しました。この結果、連結決算において 3,323 百万円、個別決算において 1,582 百万円の減損損失を特別損失に計上しております。

##### (2) 関係会社出資金評価損について（個別）

ドイツ会社及び中国子会社の業績、財政状況を検討した結果、当社が保有する当該子会社の出資金について 4,764 百万円の関係会社出資金評価損を特別損失に計上しました。なお、当該関係会社出資金評価損につきましては、連結上は消去されるため、連結業績に与える影響はございません。

3. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想値と実績値の差異について

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 ( A )	百万円 138,000	百万円 5,700	百万円 5,600	百万円 2,000	円 銭 54.95
今回実績値 ( B )	138,724	4,297	4,140	4,935	135.60
増減額 ( B - A )	+724	△1,403	△1,460	+2,935	80.65
増減率 ( % )	+0.5	△24.6	△26.1	+146.8	—
(参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	133,794	6,004	5,389	1,074	29.50

(1) 差異発生 の 主な理由

① 親会社株主に帰属する当期純利益

米回国子会社における減収及び品質関連費用の増加、ドイツ子会社において生産混乱は沈静化するも収益性改善に向けた取り組みの遅れなどにより、営業利益及び経常利益は全体として通期業績予想値を下回りました。また「2. 特別損失の計上について」に記載した減損損失の計上等により特別損失 3,699 百万円を計上しました。一方「1. 特別利益の計上について（開示事項の経過）（連結・個別）」に記載のとおり厚生年金基金解散益の計上等により特別利益 10,511 百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は通期業績予想値を上回る結果となりました。

4. 個別業績と前期実績値との差異について

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回実績 ( A )	百万円 52,274	百万円 1,141	百万円 1,523	百万円 △189	円 銭 △5.20
実績値 ( B )	53,264	△72	653	1,672	45.95
増減額 ( B - A )	+990	△1,213	△870	+1,862	51.15
増減率 ( % )	+1.9	—	△57.1	—	—

(1) 差異発生 の 主な理由

① 営業利益

車輛配管事業における輸送費、スクラップ費用及び品質関連費用の増加等の影響によりコスト全体が増加した結果、営業利益は前期実績値を下回りました。

② 経常利益

海外子会社向け金銭債権の貸倒引当金戻入益を計上したこと等により営業外収益は増加しましたが、営業利益の減少影響が大きく、経常利益は前期実績値を下回る結果となりました。

③ 当期純利益

経常利益の減少に加え、「2. 特別損失の計上について」に記載した関係会社出資金評価損及び減損損失等により 6,569 百万円の特別損失を計上しましたが、「1. 特別利益の計上について（開示事項の経過）（連結・個別）」に記載した厚生年金基金解散益等により 10,876 百万円の特別利益を計上したことにより、当期純利益は前期実績値を上回る結果となりました。

以上